

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05020100

政策目標	2 めぐもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	7 高齢者支援の充実	事業優先度	A	
単位施策	2 生活支援の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	高齢者等の冬の生活支援事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	5 保健福祉課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	助成券の利用率		#N/A	
事業目標	全対象世帯への助成	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加 住民協働	無	関係例規・法令名	有 雄武町高齢者等の冬の生活支援事業実施要綱	
		関係個別計画名	有 雄武町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	低所得世帯に対し、冬期間における増高経費の経済的支援として、1世帯あたり15,000円の助成を行う。 助成対象: 灯油・石炭・薪・暖房器具等。 助成方法: 対象世帯に助成券を交付する。	灯油購入費等の助成券を交付する。 約248世帯×15,000円	灯油購入費等の助成券を交付する。 約248世帯×15,000円	灯油購入費等の助成券を交付する。 約248世帯×15,000円	灯油購入費等の助成券を交付する。 約248世帯×15,000円	灯油購入費等の助成券を交付する。 約248世帯×15,000円
	計 画 事 業 費	事業費(千円) 18,600	3,720	3,720	3,720	3,720
実 績 事 業 費	財源内訳	国庫支出金 0				
		道支出金 2,500	500	500	500	500
		地方債 16,000	3,200	3,200	3,200	3,200
		その他 0				
		一般財源 100	20	20	20	20
関 連 事 項	特定財源の名称 道支出金 地域づくり総合交付金 地方債 過疎対策事業債 (ソフト分)	【評価・実績】	(実施内容等) 在宅で生活する低所得世帯に対し、厳寒期における暖房用燃料や冬期用品購入費の一部助成(1世帯当たり15千円) 交付世帯 226世帯 交付3,390枚 利用3,357枚 ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	100%	100%	100%	100%
		年度達成率	0%	0%	0%	0%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	18%	18%	18%	18%
		事業進捗状況	☆☆☆☆			

事業名	高齢者等の冬の生活支援事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	豊田通敏
		評価者 作成者 職氏名	社会福祉係長	内宮真希

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者等の低所得世帯	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	対象世帯への助成券交付率、利用率	
【抱える課題やニーズは】	近年の燃料価格高騰で、低所得世帯における冬期間の生活を圧迫しており、燃料のみならず、冬期用品の確保支援も求められている。	指標(指標計算式/解説)	目標年度	平成25年度
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	暖房用燃料、冬用衣料、防寒靴等の購入費の一部を助成し、低所得世帯における冬期間の生活安定を目指す。	① 助成券を交付した世帯数÷ 交付対象想定世帯数=対象世帯への交付率	目標値	248 世帯
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	低所得世帯の冬期間の生活安定を図り、健やかに暮らせる地域づくりを目指す。		実績値	226 世帯
		② 利用された助成券の枚数÷ 交付した助成券の枚数=助成券の利用率	達成度	91.1 %
			目標年度	平成25年度
			目標値	3390
			実績値	3357
			達成度	99.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	助成券の交付	申請のあった町民税非課税の高齢者世帯等に対し、15千円分の助成券を交付した。		
	冬期用品等購入費の助成	町内各小売店からの請求に基づき、助成券使用分を支払った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	冬期間の燃料代が生活費を圧迫している昨今において、低所得世帯に対し、燃料のみならず冬期用品等の購入費用の一部を助成することは、増高する生活費を抑制して生活安定に繋がるため必要性は高い。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	冬期間における当該世帯の増高する生活費を支援し、生活安定の一助に繋がった。
	<input type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	申請から決定までの期間を2週間以内とし、事務の効率化・迅速化に努めている。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	助成に際しては、一定の基準を設けていることから、公平と判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
冬期間における低所得世帯の生活安定の一助に繋がっており、燃料だけでなく、品目を複数とすることで、利用者の選択肢も増え、今後も計画どおり事業を進めることが適当である。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
低所得世帯の冬期間の生活の安定を図るためには、継続して事業を実施していく必要がある。		

- ※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止